

学校教育目標具現化の基本構想

教育環境と生徒の実態

【学校・保護者の状況】

- 平成29年度、熊石第一中学校・第二中学校の統合で開校
- 雲石地域、関内地域、相沼地域、泊川地域の4地区で構成
- 熊石小学校との小中一貫型の学校運営協議会（CS）4年目
- 統合4年目である令和2年度に生徒数が20人台。以降数年間は、20人台を維持するとみられる小規模校。
- 保護者の職業は公務員、会社員、季節労働従事者、農業や漁業等の自営業者など多岐にわたっている。また、母親のパート就業も多く、日中不在の家庭が多い。
- 学校に対しては協力的であり、PTA活動や学校行事や参観日等への参加、部活動等への支援等の多い。

【生徒の実態】

- 全体的に温和で、素直であり、気持ちの優しい生徒が多い。おとなしい面もあるが、協調性があり、生活態度は良好。
- 学習面では個人差が大きい、学力向上の状況が見られる。授業中の学習活動には真剣に取り組み、学習意欲も高い。忘れ物が多く、家庭学習の習慣化に課題がある生徒もいるが、少しずつ改善されてきた。
- 家庭での生活面では、基本的な生活習慣が身に付いているが、インターネットの利用に関して心配な様子もある。
- 体力や運動能力に関しては、運動を好む一方、スクールバスの影響や普段の運動時間の短さ、地域に運動施設やスポーツ団体等が少ないことなどからも、体力・運動能力の育成が課題である。

- ◇ 北海道、渡島、八雲町の教育目標及び重点
- ◇ 社会の要求、時代の要請

学校経営方針

- 教育課程**
 - かしこく・あたたかく・たくましく生きる生徒の育成
 - 学力の向上
- 組織・運営**
 - 総意と工夫のある校務運営
 - 働き方の見直し
- 危機管理体制**
 - 自らの生命(いのち)を守り切る生徒
 - 生徒の生命(いのち)を守りきる体制
- 家庭・地域・小中・CS**
 - 地域とともにある学校
 - 家庭と地域社会で育つ生徒

※それぞれに対する8つの到達目標の達成状況を各種評価で確認する。

校訓

○ 自主(知)
○ 協調(徳)
○ 壮健(体)

学校教育目標

- 自ら学びを広げる賢い生徒(知)
- 自他を尊重し未来を拓く明るい生徒(徳)
- 活力あふれる心身共にたくましい生徒(体)

← 評価改善 →

【教育活動の基盤としての生徒指導】

- 共感的理解に基づく教育相談
- いじめの許されない学校風土づくり
- 明るい元気な挨拶
- 生徒の自己・他者理解と受容的・支持的関係
- ルールや規範意識のある集団
- 生徒が自主性・主体性を発揮する生徒会活動
- 豊かな人間関係、コミュニケーション能力の向上の取組(学級・係活動・部活動)

研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善
～深い学びにつながる「対話」の実践～

← 改善評価 →

【指導の重点】

- 教育使命感をもち、生徒一人一人を最後まで見捨てない、やりきる指導
- 望ましい個と集団づくりを背景に、学習指導要領の趣旨に沿った教育活動の推進
- 爽やかなあいさつと、人と人の絆を大切にしたい学校風土、郷土愛の醸成

校務分掌の重点

【総務部】

- 働き方改革の推進と教師力の向上
- 学校経営参画意識の醸成と人材育成
- 生徒理解と支持的風土の醸成
- 活力ある職員集団と組織的教育活動

【教務部】

- 教育課程の円滑な編成～各教科と総合的な学習の時間のバランスの良い編成
- 日常、各行事、突発的な事象での日程、授業等の調整作業の円滑化
- 学習の約束を守って、学習しやすい環境を作り、よりよい学習態度を育てる。
- 学び合いの活動を通して、学習意欲の向上を図り、基礎学力を高める。
- 読書への興味・関心を高め、学習や教養の向上に役立てる。
- 研究主題解明の計画を具体化し、教科部会、全体会と連携し、研究実践を効果的に進める。
- 研究会、後援会等に関する情報の提供と資料の収集を円滑に進める。
- 道徳教育推進教師を中心として、道徳の時間の充実を図る。

【生徒指導部】

- 基本的な生活習慣や規範意識を育成し、公正な倫理観を確立させる。
- 学級・生徒会を基礎とした集団的活動を通して自治的・主体的な能力を育成し、自主的に課題を見つけ自己指導できるアクティブな意欲と態度を養う。
- 生命を尊ぶ態度の育成と、心身共に健康で安全な生活習慣を身につけさせる。
- 共感的な視点にたった生徒理解に努め、全職員・家庭・地域と連携し共通理解・共通行動での生徒指導にあたる。

【事務・施設部】

- 文書の適切な管理・保管に努める。
- 経理事務の適正化に努める。
- 事務処理の合理化を図る。
- 学校施設・設備・備品の保全に努める。

学年・学級経営の重点

学年目標達成に向け、協働体制を確立し推進する。学年教師全員で、学年全生徒を育てる視野の広さをもち、学び合い、高め合い、助け合う学年部を創る。

- 学年部は部会運営を工夫し、常に情報を共有する。副担任の役割を明確にし、互いの理解の上に協働体制を組む。
- 学級担任は、すべての生徒の学級所属感を高め、学校の基礎集団としての資質向上に努める。

【学年目標】

第1学年

- 中学生として自覚をもち、規律ある学校生活のなかで、他と助け合い、自分の言動について深く考える生徒の育成

第2学年

- 中堅学年としての自覚をもち、規律ある学校生活のなかで、他と高め合い、自己理解に向けて感性を磨く生徒の育成

第3学年

- 最上学年としての自覚をもち、規律ある学校生活のなかで、他と磨き合い、自己実現に向けてより良く行動する生徒の育成

教育課程の編成・実施・管理

【教育課程】

- 未来を創造する力(知・徳・体)をバランス良く育む教育課程を編成・実施する。
- 社会に開かれた教育課程を編成し、さらなる地域社会との協働体制を構築する。

【各教科】

- 「各教科の見方・考え方」、「主体的・対話的で深い学び」を追究した授業改善に全教師が取り組む。

【道徳】

- 全教育活動による道徳指導、教科横断的な指導を促す年間指導計画を作成する。
- 「考え議論する道徳」を追究した授業改善に学年部を主体に取り組む。

【特別活動】

- 集団生活の向上を視点に生徒の主体性、人間関係力を育む学級活動・生徒会活動を推進する。

【総合的な学習の時間】

- 各学年において身につけさせたい力を明確にし、全体計画、年間指導計画を見直す。

【地域とともに】

- 学校運営協議会と小中一貫教育
- ボランティア活動・PTA活動

学級は、全ての教育活動の母体であり、実践の場である。
一人の生徒に多くの教師がかかわる中学校教育の良さを最大限に活かす。